

学ぶ意欲と喜びを 持たせる教育を!

登下校の子どもの安全を!!

◎通信システムや通信端末を活用した総合防犯システムの確立!



河野としのり 県議

県議会での質疑応答より

学力に合わせた 教科・科目の設定を

河野としのり 県議

ある学校では習熟度別に三十もの段階に合わせた学校設定教科を使っている学校を起させ学が楽しさを教えています。その教材を見ると、教材の向こうに伸びようとする生徒の顔が見えるようでした。

そこで、質問致します。学ぶ意欲や喜びを持たせる為の習熟度を考慮した学校設定教科を作り、基礎の学び直しを行っていますが、このように学力格差の拡大という現実を受けとめ、学年に様々な教科書を使うだけではなく、学力レベルに応じた学校設定教科・科目を設けることを県教委としてはもっと徹底して広めるべきと思うがどうか。

県教育長 議員にご視察いただいた高校では、学校が独自に設定



数十の段階をもつ習熟度別教科の棚

私は、増え続ける不登校、校内の暴力行為の解決の糸口はないのかと思いきや、いわゆる教育困難校から立ち直った市原市の県立高校の校長先生のお話を伺ってきました。

この学校では、生徒指導の職員の方が一日中校門に立ち、挨拶、頭髪、服装指導を行っています。二ヶ月で、三割もいた茶髪・金髪の生徒はいなくなりました。遅刻、授業中の私語と携帯電話の使用など、ルールを破り規範意識の無い生徒には、徹底して指導してきたように思われます。また、私が一番驚いたのは、マルチペーシックという学校設定教科を使って、やる気を起させ学が

学校に伺い聞いてきました。

～習熟度を考慮した学校独自の教科書～

楽しさを教えていることでした。義務教育段階の学習が出来ていない生徒に対し、このマルチペーシックで習熟度別に三十もの段階に合わせた教材で教えていることでした。ある教室に案内された数十の段階の教材ドリルが取められた引き出しの棚や、教材の顔は熱さや湿度で変化する。生徒の感情や向き合いが、この教材に込められていたと聞きました。



訪問先の校長先生と話す河野としのり 県議

規範意識の育成を

河野としのり 県議

また、このように荒れ放題の高校に赴任して校長先生が初めに行った規範意識を育てるため毅然として生徒の指導強化してきたことは学ぶべきところがあると思えます。

今、文部科学省は、児童生徒に校内の規律を厳格に守らせる米國教育界の「ゼロトラランス方式」の導入について検討を始めています。

登下校の子どもの安全のために

河野としのり 県議

次に総合的な防犯システムについて質問致します。広島市と栃木県今市市で下校途中の女児が被害された事件が連続発生し、通学路の安全対策がさらに強く求められています。県におき、昨年度だけでも約三〇〇件の子どもに対する声かけ等の前兆事案情報があったと聞いています。

このような状況の中で、犯罪防止のため通信システムや身の回りに溢れる通信端末を用いた総合的な防犯システムを作るべきと思いついて質問致します。

県内においても、既にいくつかの市町村で、自治体や教育委員会等が発元となり、警察や地域住民等から提供を受けた不審者などの情報を、予め登録された保護者や地域住民の方々などの配信希望者にメール配信するなどの効果的なシステムが構築されていると聞いておりま

す。県警としてもこうした情報システムをより充実すべく支援し、県下の全ての地域において、構築していくべきと考えられているか。

県警本部長 議員ご指摘のストーカー事案等発生時における緊急通報装置の無料貸し出しについては、県警が全国に先駆けて予算化措置を図ったものであり、既にこれまで33件の活用事例があり、その中には、通報後1分余りで警察官が駆けつけ被害者を検挙し被害者を無事保護した事例や、同装置を携帯しているだけで「不安感が解消された」など精神的負担の軽減を申し立

した授業を実施しており、この授業は、学習の段階を細かく分けた教材を活用して、一つ一つの段階を上りながら、学力が身に付いていることが感じられるよう工夫された結果、生徒に達成感を持たせることができるようになったと評価されております。

このように成果が上がった事例について、さまざまな機会を通じて積極的に紹介し指導してまいります。

学校が規律と懲戒規定を事前に明示し、違反者は例外なく処分する指導法で、米国では荒廃した学校の再生に大きな効果を発揮しているとのことである。

もちろんこの方式には、罰則を受ける生徒を再生する施設や先の高校の先生のように生徒の一人立ちを願って厳しく、生徒への愛情に裏付けされたものがなければなりません。この規範意識を育てる生徒指導におけるゼロトラランス方式の導入について、教育長の見解をお伺い致します。

「トラランス」は英語で「寛容さ」を意味し、ゼロトラランスは文字通り「寛容さゼロ」。規則適用には一切例外を認めず、寛容ある態度で臨みます。規則に違反した生徒を厳しく処罰する指導方法のことであり、規則とは、学校という社会の員として振舞うためのルールであり、ルールに違反した場合は罰則を受ける。その過程を通じて個人に規範意識を育て、社会で自立し人立ち出来る子どもを育てるといふ大事な教育が校則の罰則には内包されている。

県警本部長 後とも被害者や関係者のプライバシーにも十分配慮しながら、これらネットワークについて層の充実が図られるよう努めてまいります。

河野としのり 県議 最後に、子どもにもICタグを持たせそれを通学路の自動販売機などに設置したセンサーで登下校を見守り、その情報を行政機関のデータベースに送信し保護者も校門通過などの通知をメールで受信できるようにしている自治体もあります。

河野としのり Profile

昭和25年	1月22日生まれ
48年	早稲田大学理工学部卒
50年	早稲田大学大学院修士課程修了
同年	東洋エンジニアリング株式会社入社
平成7年	千葉県県議会議員初当選
11年	千葉県県議会議員二期当選
15年	千葉県県議会議員三期当選
	千葉県監査委員、
現在	商工労働・企業常任委員

ご意見・ご要望をお寄せ下さい。

e-mail info@t-kohno.com
http://www.t-kohno.com
FAX.043-211-0065